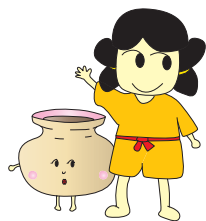


200年におよぶ古代の集落跡を発見！

大田市久手町

いちいふけだ

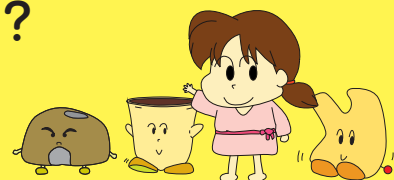
市井深田遺跡



むかしはどんな生活をしていたのかな？



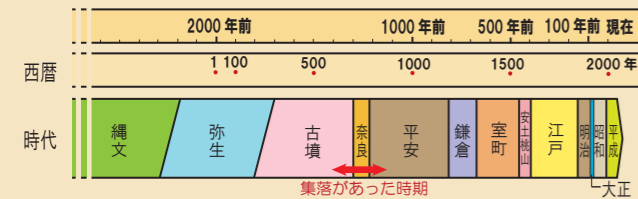
発掘調査ってなんだろう？



市井深田遺跡はどんな遺跡？

市井深田遺跡は、大田市久手町^{さつか}刺鹿にあります。朝山大田道路を建設する前に、発掘調査をおこなったところ、川沿いのゆるやかな斜面から、建物の跡やたくさんの土器片が見つかりました。

その後の詳しい調査の結果、この集落は古墳時代の終わり頃から奈良時代を経て、平安時代の初め頃までの長期間にわたって続いていたことがわかりました。



遺跡上空から見た西側の景色（左の図のカメラの位置から）

発掘調査をはじめます

市井深田遺跡の発掘調査は、平成 23(2011)年 5月から 11月にかけておこないました。発掘によって、この場所では古代の人々が暮らしていたことがわかりました。しかし、発掘調査をはじめるとは、たくさんの木や竹でおおわれていて、遺跡があることは一目ではわかりません。

発掘調査は、まずは、木や竹を取り除くことから始めました。次に長い月日をかけて積もった土の層を一層ずつ調べていきます。するとなだらかな斜面があらわれ、その所々に人が建物を建てるために地面を平らに加工した場所があることがわかってきました。



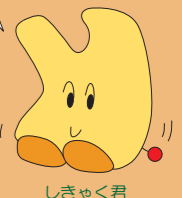
みんなで力を合わせて作業を進めていくよ。



発掘には大きな機械も使うんだね。土がベルトコンベアーで流れて行くよ！



いろいろな道具を使い分けて作業するよ。



ここにはいったい、いつの時代のどんな建物があったのでしょうか？さらに調査を続けました。

どうしてここに住んだのかな？

大田市波根町から久手町には、かつて波根湖という湖が存在していました。波根湖は、江戸時代から本格的に農地として干拓され、昭和 20 年代には完全に姿を消しました。

この湖は日本海とつながる入り海であったため、古くは港や漁場として栄えました。

市井深田遺跡は、波根湖と今の大田市街地方面とを結ぶ場所に位置しており、遺跡のあるあたりは多くの人々が行き交う、にぎやかな所だったことが想像できます。

遺跡の近くにも海や港に関する地名があるよ。どんな景色だったのかな？

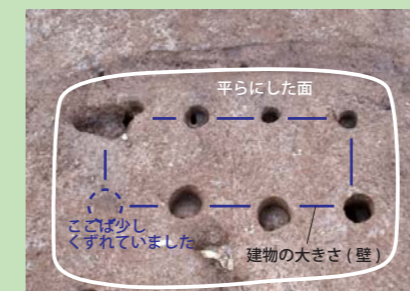


波根湖の移り変わり

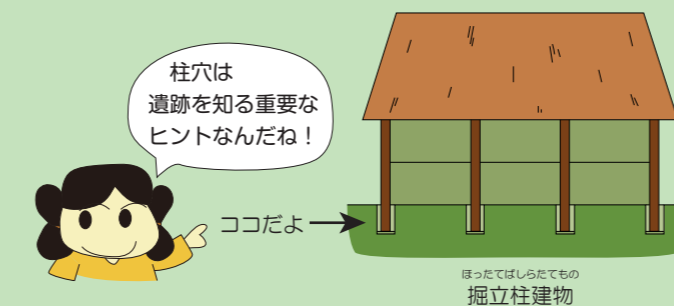


丸い穴が見えてきました

Q 平らに加工された地面に、他とは違う土の色をした丸い穴を発見しました。その穴の土を慎重に取り除いたのが下の写真です。この穴は何でしょうか？



A この穴は建物の柱を立てた穴（柱穴）です。ここには下のような建物が建っていたと考えられます。

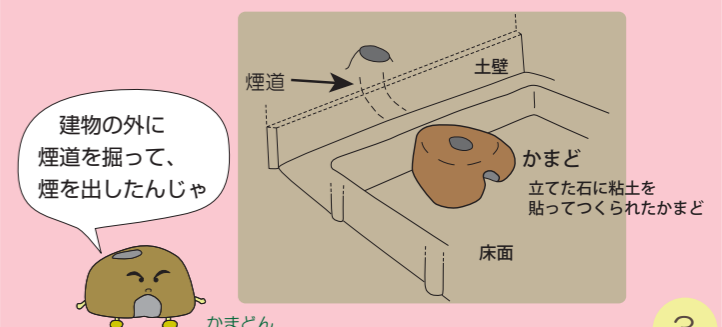


石が出てきました

Q 下の写真では、建物があつた所に石が並んでいます。この石は何でしょうか？



A この石はかまどの一部です。この建物には、下の図のようなかまどがあり、調理などに利用していました。



遺跡を上から観察！

市井深田遺跡は緩やかな斜面にあります。斜面のふもとには、昔は川が流れていました。人々は、川沿いの見晴らしがよいこの場所に家を建て、日々の生活を送っていました。



北側上空から撮影

たてあなたのもの
… 竪穴建物
ほったてばしらたのもの
… 掘立柱建物
や平地

掘立柱建物の跡

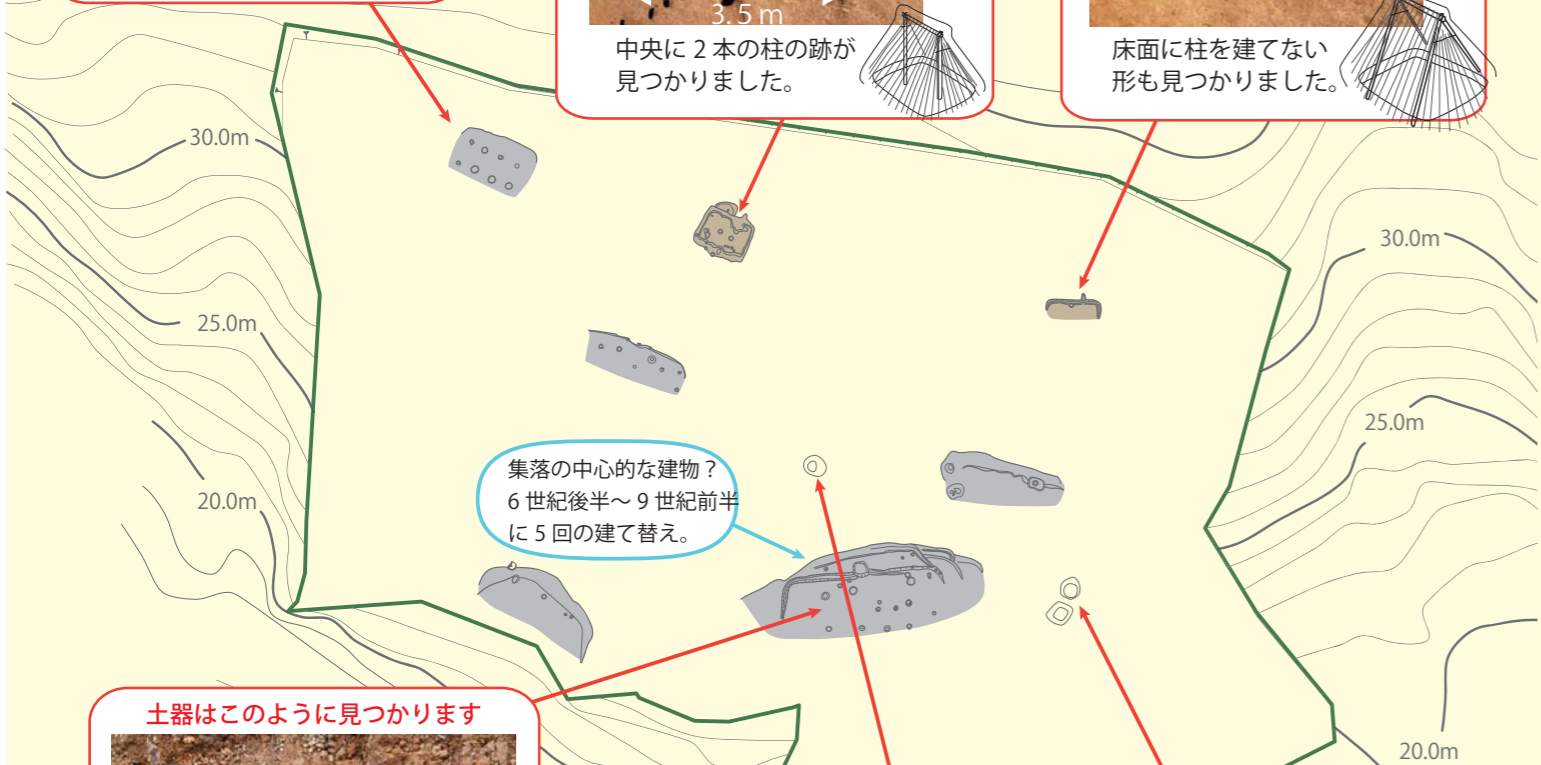
柱の跡が規則正しく並んでいます。

竪穴建物の跡

中央に2本の柱の跡が見つかりました。

竪穴建物の跡

床面に柱を建てない形も見つかりました。



集落の中心的な建物？
6世紀後半～9世紀前半に5回の建て替え。

土器はこのような見つかります

建物が建っていた跡から土器が出土しました。これらの土器が使われていた時代を調べると、建物が使われていた時代もわかってきます。

縄文時代の落とし穴？

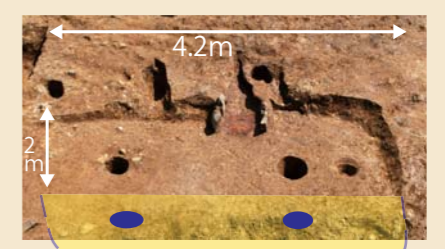
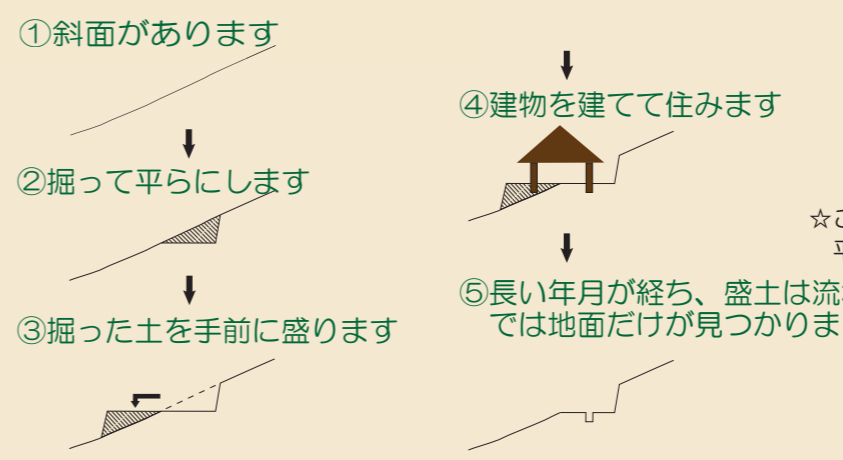
直径1.5m、深さ2.1mもの深い穴。井戸？お墓？調査をしても決め手となる物が何も見つかりませんでした。イノシシなどを捕まえた落とし穴ではないかと考えています。

不思議な穴を発見！

たくさんの石が入った穴。中からは石臼や土器片も出土しました。大発見か！？と思われましたが、江戸時代以降、土地を耕した際に邪魔な石を投げ込んだ穴のようです。

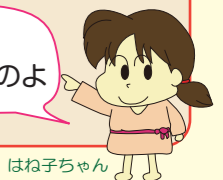
はね子ちゃんの解説！

☆斜面に建物を建てる様子



☆この辺りまで平らにして利用していました

上の写真の建物は4本柱の竪穴建物だったのよ



こちらからも土器が出土

ここに住んだ人たちが使ったうつわや煮たきの道具が出土しました。

集落の中心的な建物？
何度も建て替えていたことが分かりました。

いろいろな建て方の建物が並んでたんだね

この辺りは、平らに整地されていましたが、みつかった柱穴はわずかでした。何かの作業場だったかもしれません。

高圧鉄塔

建物内のかまど

この竪穴建物では、建物内にかまどがつくられていました。電気やガスのない時代、かまどの火は調理をしたり、暖をとったり、生活する上で欠かせない大切なものでした。

川跡からは遺跡付近の様子がわかります

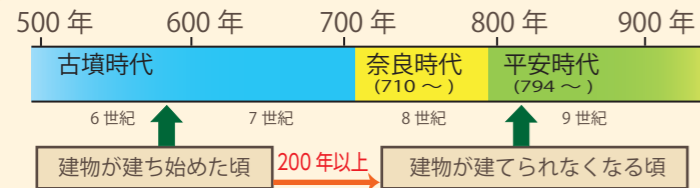
この辺りは川の跡でした。市井川が今よりも大きな川だったことがわかります。古代の土器のほかにも、縄文時代や弥生時代の土器の破片も見つかりました。近くに集落があったのでしょうか。



下駄の落とし物？(江戸時代頃)

発掘調査からわかったこと

市井深田遺跡では、古代の人々が家を建てたり作業場としたりするために斜面を平らにした場所を18か所発見しました。また、そこに残っていた柱穴や建物の周りに掘ったと考えられる溝などから、建物の跡が34棟見つかりました。このなかには、同じ場所で2～5回の建て替えをおこない200年にわたり使用された場所もありました。大田市内でこのような大規模な集落跡が発見されたのは初めてのことです。



ここに建物が建ち始めたのは
都で聖徳太子が活躍したころ
なんだよ！



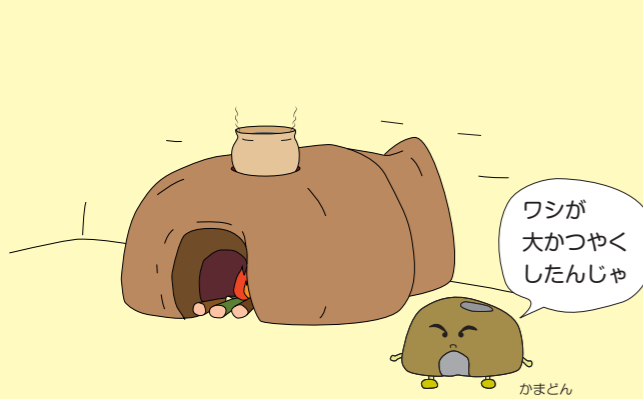
海岸部と山間部、両方の特徴が見つかったんだよ！

当時、人々は、主に下の写真のような建物で生活をしていました。竪穴建物(下、左の写真)は、地面を深く掘りくぼめて建物を建てる方法で、その多くに室内の壁に沿って造りつけのかまどを備えていました。それに対し、掘立柱建物(下、右の写真)では、造りつけのかまどは備えておらず持ち運びができる移動式のかまどや土製支脚が使われていたものと考えられています。

竪穴建物



(写真) 島根県立八雲立つ風土記の丘(松江市)に復元されている竪穴建物

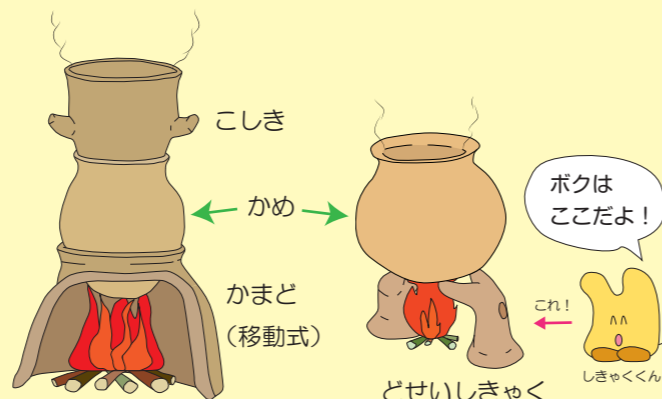


○竪穴建物の内部につくられた造りつけのかまど

掘立柱建物



(写真) 島根県立八雲立つ風土記の丘(松江市)に復元されている掘立柱建物

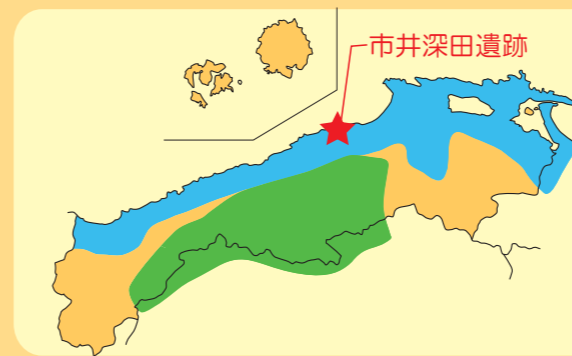


○掘立柱建物では、移動式かまどや土製支脚で煮炊きすることが多い

島根県では、これまでの発掘調査から、建物内にかまどが造られた竪穴建物は神戸川の上～中流域などの山間部を中心とした生活様式とされてきました。しかし、市井深田遺跡は、海岸から直線距離わずか2kmの海岸部の遺跡でありながら、造りつけかまどを備えた竪穴建物を5棟も発見するという結果になりました。

この集落での人々の暮らしには、海と山の生活様式が混在していたと考えられます。

かまどのちがいにみる地域性



これまでの島根県内の発掘の結果をもとに古墳時代～奈良・平安時代のかまどのちがいを表すとこの図のようになります。かまどの違いから当時の海岸部と山間部では、調理の方法や住居スタイルに地域差があったことが想像できます。

- …主に移動式のかまどを用いる地域
- …主に造りつけのかまどを用いる地域

市井深田遺跡の遺物

市井深田遺跡では、たくさんの遺物を発見しました。これらは、当時の生活の様子を知る上で貴重な手がかりになります。



土師器は、弥生土器の流れを受けた素焼きの土器です。古墳時代から奈良・平安時代を中心に長くつくられました。窯を使わず野焼きで800度前後で焼きました。



須恵器は古墳時代の中ごろに渡来人によって朝鮮半島から伝えられたと考えられている焼き物です。斜面につくられたトンネル状の登窯の中で1100℃以上の高温で焼かれました。

今の食器やお鍋と比べてみよう！



なぜかな？

市井深田遺跡の発掘の様子と成果を見てきました。

この遺跡では、海岸部と山間部、両方の特徴をもつ建物や生活の跡を発見しました。

同時期に隣り合っていたと考えられる建物でも、その建て方やかまどのつくり方に違いがあったというのは不思議ですね。海岸部と山間部の密接な交流があったのでしょうか。または、山間部に住む人々が移り住んできたのでしょうか。みなさんはどのように考えますか？

また、みなさんが暮らす地域にも、人々が住んだ建物や使った道具など、まだまだ不思議がいっぱいです！興味をもったら調べてみましょう。疑問や成果を私たちにも教えて下さいね！

出雲国と石見国の境にあったのよ



周辺の遺跡

市井深田遺跡の周辺では、朝山大田道路の建設に伴って、以下の遺跡の発掘調査もおこなわれました。



なかお

中尾H遺跡

平成22(2010)年度調査

市井深田遺跡のあった斜面の麓を流れていた川跡の遺跡です。縄文時代から江戸時代までの幅広い時代の遺物が見つかりました。



美しい文様の縄文土器

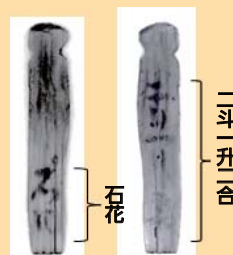


線が刻まれた石

X線



土馬は災いを除き、人々に幸福をもたらす神様の乗り物でした。水辺の祭祀にも利用しました。



「石花(=カメノテ)」と墨で書かれた木簡。地域の産物でした。

あらまき

荒槇遺跡

平成24(2012)年度調査

江谷川の川跡の遺跡です。奈良・平安時代の遺物が主に見つかりました。



赤く塗られた鮮やかな土器

漆がついた土器片



銅鏡を真似て作ったと思われる土製品

かど

門遺跡

平成23(2011)年度調査

市井深田遺跡、中尾H遺跡の間を流れる市井川下流の遺跡です。古墳時代から奈良時代にかけての遺物が多く見つかりました。



豊富な遺物が、大きな集落の存在を伺わせます。

今後もみなさまに発掘調査の様子をわかりやすくお伝えします。

また、発掘現場でおこなう現地説明会にも是非お越しください。



発掘現場の見学と担当者による解説



出土品を間近で観察

編集・発行 平成27(2015)年3月発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL(0852)36-8608

E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp

URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>